

おいでませ！山口国体・山口大会

2011(平成23)年10月1日から11日に東日本大震災復興支援第66回国民体育大会(おいでませ！山口国体)が、10月22日から24日に東日本大震災復興支援第11回全国障害者スポーツ大会(おいでませ！山口大会)が開催されました。山口県では半世紀ぶりの国体開催となった本大会は、3月11日に起こった東日本大震災の被災地、さらに日本を励ます素晴らしい大会となり、約一年間、山口県民が一丸となり国体イヤーを盛り上げました。

■「国民体育大会」と「障害者スポーツ大会」について

「国体」は広く国民の間にスポーツを普及し、国民の健康管理と体力の向上を図り、併せて地方スポーツの振興と地方文化の発展に寄与する目的で開催される、総合的なスポーツの祭典です。戦後の混乱期の中、国民に明日への希望と復興への奮起を促すため、1946(昭和21)年に京阪神地域で第1回大会が開催されました。山口県では、オリンピック東京大会の前年である1963(昭和38)年に「友愛・奉仕・躍進」をモットーに第18回国民体育大会(山口国体)を開催。以降1988(昭和63)年の第43回京都国体から二巡目となり、2011(平成23)年の「おいでませ！山口国体」は、48年ぶりの山口県開催となりました。



山口国体開催中の陸上競技場



総合優勝を果たした山口県選手団と二井知事

以降、オリンピック終了後に開催されるパラリンピックのように、毎年、国民体育大会終了後に国体と同じ開催地で行われています。障害のある選手が競技等を通じ、スポーツの楽しさを体験するとともに、多くの人々が障害に対する

理解を深め、障害のある人の社会参加を促進することを目的として開催される障害者スポーツの全国的な祭典です。山口大会では3日間の会期で開催され、全国から都道府県・指定都市の選手団約5500人が参加しました。

今回、山口県で開催された『第66回国民体育大会』『第11回全国障害者スポーツ大会』の愛称は、「元気あふれる山口」へ全国から集う人々を、150万人の県民一人ひとりが温かくお迎えするという趣旨から、それぞれ「おいでませ！山口国体」「おいでませ！山口大会」と名付けられました。そしてスローガンとなった「君の一生けんめいに会いたい」には、力と技を競うアスリート・見守り応援する観客・大会を支えるボランティア、全ての参加者の一生懸命がきらめく、夢と感動に溢れる大会にしたいという思いが込められています。また大会マスコットの「ちよる」は、愛嬌のあるかわいらしい姿が子どもから大人まで人気を集め、各会場で選手たちを応援して盛り上げました。



ライフル射撃で表彰される山口県代表選手(中央)

大会成績は、選手の大活躍、そして県民一丸となる応援によって、見事に念願の天皇杯(男女総合優勝)と皇后杯(女子総合優勝)を、それぞれ獲得しています。

■山口国体の会場

山口国体では、陸上競技や水泳などの「正式競技」が40競技(冬季3競技を含む)、高等学校野球(硬式、軟式)や開催地都道府県が希望する「公開競技」が行われました。その他にも、身近に親しまれているスポーツの普及と県民参加の国体を実現するため「デモンストレーションとしてのスポーツ行事」も行われています。開催に伴い、これらの競技や行事が行われる県内各地の競技場・施設では、開催数年前より老朽化した施設の大規模リニューアル、新施設の建設などが行われ、多くの会員企業がその建設・整備に携わりました。

■国体を機に半世紀ぶりの「維新百年記念公園」リニューアル！陸上競技場」

中でもメイン会場となった「維新百年記念公園陸上競技場」、新たに建設された「山口きらら博記念公園水泳プール」と「山口県立下関武道館」について紹介します。

「おいでませ！山口国体・山口大会」の開会式・閉会式が行われ、メイン会場として使用されたのが、山口市にある「維新百年記念公園陸上競技場」です。同陸上競技場は、昭和38年の第18回国民体育大会(山口国体)当時のメイン会場として整備されましたが、老朽化などのため、今回の国体・大会開催を契機に平成20年からリニューアル整備を進めてきました。

そして国体イヤーとなる2011(平成23)年3月19日(土)にオープン。公園内の自然環境との調和をコンセプトに、最新の設備を備えた現代的でより高性能な競技場へと生まれ変わ、10月の山口国体本番を迎えました。

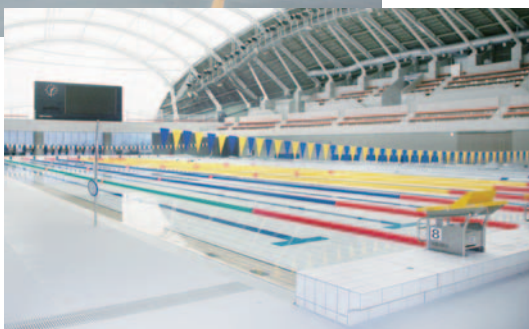


維新百年記念公園陸上競技場
外観とフィールド内部

特
集
見
聞

聞く！
語る！

山口きらら博記念公園水泳プール 外観



山口きらら博記念公園水泳プール 50メートル（メイン）プール

■県内初の
本格的な水泳施設
「山口きらら博
記念公園水泳プール」

県内初の屋内日本水泳連盟公認施設となる「山口きらら博記念公園水泳プール」は、山口きらら博記念公園内に2011（平成23）年5月14日（土）に新設されました。プールは50メートル（メインプール）、25メートル（サブプール）を備え、両プールとも底面が可動式となっており、競泳・水球・シンクロなどの各種水泳競技が開催可能になりました。地下1階、地上3階（建築基準法上）という大規模な施設で、大型映像装置もあり、山口国体の感動の場面を映し出しました。

■新たなスポーツ交流の
拠点施設として期待！
「山口県立下関武道館」

剣道会場となった「山口県立下関武道館」は下関地域における「武道」をシンボルとした「スポーツ」によるまちづくりを推進するための交流拠点施設として新たに建設され、大道場、柔道場、剣道場、弓道場、相撲場等を有する総合武道館として2011（平成23）年7月21日（木）にオープンしました。

山口県立下関武道館 外観と内部施設



大規模な大会にも対応できます。武道系競技だけではなく、球技系競技にも幅広く利用することができ、トレーニングルームや情報提供コーナーなども充実しています。

■スポーツ文化を
核とした

新しい地域づくりへ

高齢化社会が進む近年、スポーツの重要性が再認識され、私たちが生きていく中で、競技としてのスポーツから健康づくりや生きがいを目指すものまで、新たなスポーツの楽しみ方が提案されています。

山口県では今後、国体開催後の競技力維持に向けた取り組みと、開催時に整備した施設の有効活用を進めていくことが必要になって

黒を基調に、県木アカマツをイメージした赤のラインを入れた近代的なデザインで、大道場は、剣道・柔道競技なら6面分の公式競技スペースを取ることができ、

いきます。今回新しく建設されたこれらのスポーツ交流拠点施設を、より多くの県民が気軽に利用できる多目的な施設として、発展させていくことが課題です。地域住民の交流の場として様々な活用が期待される新しいスポーツ施設の誕生により、県民の多様なスポーツ活動を応援することのできる環境・地域づくりが期待されます。その一翼を担う存在として、地域に求められる建設業のあり方をこれからも山口県建設業協会は目指していきます。



山口国体にて

